

Presidential Award Presentation (Multiple)

Fri. Jul 10, 2026 10:40 AM - 11:40 AM JST | Fri. Jul 10, 2026 1:40 AM - 2:40 AM UTC | Room5 (Room603)

[TPAL] 会長賞候補講演 (多領域部門) (II-TPAL)

座長:山岸 敬幸(東京都立小児総合医療センター)

座長:仁尾 かおり(大阪公立大学大学院 看護学研究科)

[II-TPAL-2] 成人先天性心疾患患者を診療する医師が認識するACP実施上の障壁

○山本 亜咲<sup>1</sup>, 成田 瑞姫<sup>1</sup>, 秋山 直美<sup>2</sup>, 清水 沙友里<sup>3</sup>, 金子 惇<sup>3</sup>, 町野 智子<sup>4</sup>, 野崎 良寛<sup>5</sup>, 白石 公<sup>6</sup>, 大内 秀雄<sup>6</sup>, 落合 亮太<sup>2</sup> (1.筑波大学 医学群 看護学類, 2.筑波大学 医学医療系 看護・健康科学域, 3.横浜市立大学 データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻, 4.筑波大学 医学医療系 循環器内科, 5.筑波大学 医学医療系 小児科, 6.国立循環器病研究センター 小児循環器内科)

Keywords: 成人先天性心疾患、アドバンスケアプランニング、多職種連携

**背景:** 成人先天性心疾患 (Adult Congenital Heart Disease: ACHD) 患者は若年で予後不良となることがあり、アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning: ACP) の早期導入が重要となる。後天性循環器疾患領域ではACP実施上の障壁が検討されている一方、ACHD領域での知見は乏しい。

**目的:** ACHD患者を診療する医師が認識するACP実施上の障壁、および小児循環器専門医 (小循環群) とACHD専門医 (ACHD群) の認識の特徴を明らかにすること。

**方法:** 全国の小児循環器専門医およびACHD専門医807名を対象に、自記式質問紙による横断調査を実施した。ACP実施上の障壁は、先行研究と専門家の協議に基づき作成した17項目を「そう思う」から「思わない」までの5件法で尋ねた。群間比較にはMann-Whitney U検定を用いた。

**結果:** 有効回答のあった314名のうち、ACHD領域のACPに関与経験ありと回答した262名を解析対象とした。障壁のうち、「そう思う」または「ややそう思う」との回答が多かった項目は、順に「患者の予後予測が難しい」210名 (80%)、「ACHD患者に提供しうる治療の効果に関するエビデンスが乏しい」192名 (73%)、「患者が、自分自身の病状について理解できていない」175名 (67%) であった。群間比較では、小循環群153名は「医療者が、患者や家族とどのようにACPを進めていけばいいのかわからない」「治療目標について、多職種のチームメンバー間で意見が一致しない」、ACHD群109名は「家族が、患者の病状について理解できていない」を有意に強く認識していた。

**結論:** 予後予測の難しさやエビデンスの乏しさがACP実施の障壁となっていることが示された。多様な専門性や価値観を有する多職種による協議と、移行期からの家族支援の必要性が示唆された。